

農作物技術情報 ツキノワグマ人身被害防止対策 特別号

発行日 令和7年10月30日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 基 本 ツキノワグマの住居・倉庫・畜舎等への侵入を防ぐため
クマの食べ物の排除を
- ◆ 侵入防止対策 戸締り・施錠・食べ物の密閉保管を
- ◆ 刈 払 い 家の周囲や農地周辺のやぶは刈払い、見通しをよくする
- ◆ 電 気 柵 点 検 地面と平行に隙間なく、正しい高さで設置されているか点検を
- ◆ 恒 久 電 気 柵 支柱・ワイヤーとも一定の強度があるため活用を検討します

1 基本

令和7年4月1日から10月19日までに、31件32名の人身被害が発生しています。ツキノワグマの出没に十分に注意を払い、目撃したら速やかに市町村または警察へ連絡してください。

昨今のツキノワグマは、市街地にも出没しており、今後、農地だけでなく、倉庫や畜舎等への侵入が懸念されます。人身事故を防ぐためにも、下記について十分注意願います。

2 人身被害防止

- (1) ツキノワグマは、食べ物を探し、人里へ出没しています。食べ物となる農産物や飼料等がある「倉庫（米や米ぬか、果樹など）や畜舎、飼料庫（配合飼料、牧草・トウモロコシ・稲のロール等）」はその侵入対象となる可能性が高いと思われます。
- (2) これまでツキノワグマの目撃が無かった地域であっても十分に注意します。また、早朝・薄暮の時間帯はもとより、昼間であっても注意します。
- (3) 「倉庫・畜舎・飼料庫」等には、入る前に、音（鈴・笛・クラクション・手をたたく）や声で人間の存在を知らせつつ、異常が無いかの点検も実施します。
- (4) 「倉庫・畜舎・飼料庫」等は、その扉を普段からしっかりと締め、施錠します。

また、食べ物となり得るものは、密閉容器で保存するなど、臭いが出ない対策と同時に、開封されない容器で保管します。

扉を破壊しての侵入対策では、電気柵の設置を検討します。電気柵は出入口へ設置するほか、窓等予期せぬ場所からの侵入にも対応するには、建物と敷地全体を囲うことも検討してください。

電気柵を設置する場合には、100V コンセントを電源としたパワーユニットの利用もできます。

- (5) 農地への移動にあたっては、周辺に注意を払い、なるべく複数人での行動や、音や声で人間の存在を知らせるようにします。
- (6) 「倉庫・畜舎・飼料庫」周辺をはじめ、その地域や農地にクマが来ていないか、普段から注意してください。
クマがいきなり住居や畜舎に侵入するような大胆な行動をとることは考えづらく、空き家や小屋に侵入し、置いてある農産物や食べ物、ゴミなどに味をしめて侵入を繰り返すうちに行動が大胆になっていくものと推測されています。扉に付いた「手の跡」なども見逃さないよう点検します。
また、センサーカメラを設置してモニタリングする方法のほか、簡易な方法としては、敷地内に「石灰帯」を設置することで、足跡が見えやすくなります。
- (7) 万が一、襲撃された場合の対策として、ヘルメットの着用や、防御姿勢（両腕で顔や頭をカバーし、

地面に伏せる)の訓練を実施します。また、できる限り複数人で行動するよう心掛けてください。クマ撃退スプレーについては、誤作動防止ロックを外す練習と、有効距離の確認を事前に実施しておきます。

3 環境整備と電気柵の活用

- (1) リンゴなどの農産物やトウモロコシサイレージ、配合飼料を廃棄する際は、それらを食べられないよう、十分に注意し、埋却または焼却するか、電気柵で囲います。
- (2) ほ場や地域、集落、河川付近の茂みや耕作放棄地は、「草を刈る」ことで見通しを良くし、ツキノワグマの潜み場や休憩場をなくします。また、集落周辺のカキ・クリ等の実のなる木は、クマが実を食べに通わないよう、木全体を電気柵で囲う、幹にトタンをまくなどの方法で適正に管理し、実を利用しない場合は早めに伐採するなどの対策を講じます。
- (3) 地域や集落に、「ツキノワグマ対策」の電気柵や「イノシシ対策」の電気柵がある場合には、できる限り長い期間、通電させ使用します。イノシシを対象とした電気柵は、そのワイヤーの高さがツキノワグマ対象とした場合と共通ですので、ツキノワグマにも効果があります。
電気柵のワイヤーは、地面と平行に隙間なく、正しい高さでピンと設置されているか点検します(ツキノワグマ対策の場合は地面から 20, 40, 70cm です)。
- (4) 地域や集落に、「ニホンジカ対策」の電気柵がある場合には、最下段に「高さ 20cm」の 1 段を追加することで、ツキノワグマ対策としても活用が可能となります。
- (5) フェンシングワイヤーを用いた「恒久電気柵」の場合は、最下段が雪に接触するまでは、問題無く稼働できます。また、最下段が雪に接触した場合でも、その段のみ通電させないようにすることで、積雪下でも運用が可能です。こうした理由に加え、物理的強度も高いため、従来のポリワイヤーを利用した簡易電気柵より、恒久電気柵の利用を検討してください。

4 おわりに

ツキノワグマを含め野生獣の対策としては、「まもる」・「よせつけない」・「つかまえる」の3つの基本対策を同時に実施する総合対策の実行が重要です。地域の方々と連携し、地域や集落へのクマの侵入を早期に把握しつつ、事前の対策を実施します。

また、ツキノワグマを対象とした場合の防御策としては「電気柵」が有効であることから、電気柵の適正な運用を検討してください。

なお、集落環境の点検や、設置済み電気柵の点検、集落やほ場への電気柵の設置など、野生獣被害対策の実施について、各農業改良普及センターでは支援を行っていますので、適宜ご相談ください。



図 ツキノワグマ人身被害防止対策(岩手県環境生活部自然保護課ホームページ抜粋)

発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**忘れずに！点検・確認・安全管理
無事故で終える収穫作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。